

近畿支部報告

1. 京都・蹴上周辺 P w

(報告者 11期 加藤 忠好)

- ・実施日 2016 12/17(土)
- ・コース 琵琶湖疏水記念館～南禅寺・水路閣～ねじりマンポ～日向社～神明山～旧鶴巻邸～天智天皇陵～旧安祥寺舟溜まり跡～JR山科駅
- ・参加者 (12名) <§:夫婦で参加>
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、藤井⑩、高田⑩、畔山§⑪、加藤§⑪、楠屋⑭、金井⑮、三宅⑮
- ・報告

京都は古都である。古いだけではない。西欧的歴史遺産もあり、古都らしいのは、それを大切に使い続けている精神だ。



<田辺朔郎の銅像と>

物流を水運に頼っていた当時、琵琶湖と京都を結んだのが琵琶湖疏水である。二つの峠の下、船を通す大きさの隧道を作る。当時としては問題の多い困難な技術であった。

それを若き日本人監督の下で日本人の手で完成させたのだ。一方、近代産業の動力源として、琵琶湖と京都との標高差を利用した水車を想定していたのを、実用的な発電機が開発されたことを知るや、いち早く水力発電に切り替えたのが京都である。日本初の市内電車が走った都市が古都京都であったというのも面白い。

今回は8期伊豫さんと私との共同企画だ。まず、トイレ付き入館料無料という好条件の琵琶湖疏水記念館を集合場所とした。知識欲に駆られて早く来た人は十分予習ができたはずである。

金井さんの差し入れのアップパイを待って、10時半出発、10分後には南禅寺の三門に着いてしまった。南禅寺では法堂や水路閣を中心に、遅い紅葉を賞でることができた。実は、

水路閣に上れば、水路に沿って遡上できる散歩道があるのだが、土手の補強工事のため来年の秋まで閉鎖、仕方がない。



<南禅寺水路閣にて>

来た道を少し戻り、水力発電の導水管、インクラインの下を通り抜けるネジリマンポを見物、11時半頃疏水公園に着いた。ここより登り坂に入るの、若き田辺朔郎の銅像の前でアップパイの大中小に興じた。

登りといっても舗道、バスも通れないような細い道の奥に日向宮がある。京都のお伊勢さんとも称される、隠れた紅葉地なのだ。11月末の下見に来た頃は紅葉の最盛期であったが、すっかりくすんでいた。建物は伊勢神宮と同じ茅葺の神明造り、小ぶりながら外宮と内宮、天の岩戸までもが揃っている。その岩戸を通り抜けて登山道に入った。

京都の東山というのは宗教じみた魔境もどきが多い。日向宮の裏手の山頂には「笠狭之御崎舊蹟」なる石柱があつたりする。ここには天孫降臨の日向のみならず、最初に宮を置いた場所までも楽しめるのだ。自分が名所に行くのではない。近くに有名地を作るといのが、いかにも都会的である。心を神代に羽ばたかせながら、ここで昼食にした。



<ここが笠狭之御崎なるぞ>

歩いて数分で今日の最高所、神明山に着いた。最高地点といっても218mだから笑ってしまう。展望がないので、即出発。七福思案

処といういわくありげな場所を通り約30分で山科側に下山した。これで京都側の疏水の第3トンネルの出口から登り、一山越えて第2トンネルの入口に下りたことになる。

近くには、土木・建築関係者にはよく知られた記念物が二つ、「本邦最初鉄筋混凝土橋」の石碑が建つ橋と「旧鶴巻邸」である。門外漢のわれわれには、「フヘン」というだけのものであるが、とりあえず記念写真。



＜日本最古の鉄筋コンクリート橋＞

すぐ近くに天智天皇陵があるので立ち寄った。陵であるが、壬申の乱以降になって作られたものであるとのこと。それを知るとこの壮大さは鎮魂に意味もあるのかなとも思ってしまった。

陵の裏から疏水道に戻り涸れた疏水（「疎」の字の方が適切か）に沿って歩いた。大きな樫の木から土手を離れたが山科の盆地から相当高い場所に疏水が作られているのがわかった。（実は疎と疏は同じ意味だったよ）

山科駅 16:50 到着、もうすぐ冬至、夜の帳がすぐそこまで来ていた。山科駅前近くのトンカツ屋で乾杯をして別れた。

2. 琵琶湖疏水 Pw

（報告者 11期 加藤 忠好）

- ・実施日 2017 1/21(日)
- ・コース 山科駅～旧安祥寺舟溜まり跡～四ノ宮舟溜まり～第1トンネル出口～普門寺～第1立坑～小関峠～長等神社～三井寺境内散策～第1トンネル入口～大津閘門～三高艇庫～京阪三井寺駅
- ・参加者 (11名) <§: 夫婦で参加>
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、高田⑩、畔山§⑪、加藤T⑪、森川⑪、野村⑪、楠屋⑭、金井⑮、三宅⑮
- ・報告

先月のPWは苦しまぎれの計画であったが意外と好評で、次回はその続きをとの要望があったくらいである。よって、その名もズバ

リの疏水Pwとした。前回は疏水沿いにほとんど歩かなかったので、今回はなるべく疏水沿いの道を歩くように計画した。といっても長大な第1トンネルだけは無理なので、その工事のために使われた第1および第2堅坑を案内することにした。それと、このあたりには明治初期に刻された几号(キゴウ)水準点(ベンチマーク)なるものが多く残っているので、それも紹介し、一緒に捜すことにした。もちろん名所三井寺も外せない。

山科駅 10時発、10分後には前回の樫に着いた。ここからが疏水歩きとなった。疏水に架けられた橋には名前がつけられているが、何故か疏水が安祥寺川の上を渡る立派なレンガ造りの橋は名を持っていない。疏水歩きの楽しみはそのような橋を見ることも含まれる。なんでこんな所にとと思われる場所に架かっている橋は、疏水を通る前からあった山道だろう。それらはみんな土手からさらに橋を石段で登らせる三角橋という構造をしている。疏水が単に用水でなく、水運であったことの名残である。京都の高瀬川に架かる橋も、かつてはそうであったと聞く。



＜疏水第五橋：三角橋となっている＞

今朝は寒かった。山が白いのは霧氷だろうか。疏水の水は京都市民の水道水として使っている。こんなに水量が少なくて大丈夫と心配する人も居たが、ここのほかに第2疏水があり、こちらは工事中で水量が少なくても、第2疏水の方でまかなえているようだ。

第4橋である安朱橋は山科駅と毘沙門堂をつなぐ橋だ。橋を過ぎると、すぐに諸羽トンネル。疏水はここから流れ出るが、歩道は山裾を大きく迂回している。元来、疏水も山裾に沿っていたのだが、湖西線を新設するとき水路だけトンネルとしたのだ。疏水を埋めここに広い公園ができた。

秋の紅葉から春の桜の時期まで、京都人として暮らしている金井さんがアップパイの名

品を持ってきてくれたので、諸羽トンネルの入口側、かつての四宮舟溜まり前で大中小を実施。不公平の平等に大いに笑った。

一方、このあたりの疏水道は京都府と滋賀県の境界となっている。その延長線の狭い道路上に、京都市と大津市の二都市のマンホールが並んであるという珍しい地点である。



<左が京都市、右が大津市のマンホール>

峠を越えていないのにここが大津市とは不思議な感じがするが、このあたりはかつて三井寺の所領であったことに由来するのだろうか。どこを歩いても歴史に遭遇するのが近畿である。

昼食は、疏水第1トンネル出口にあるコンビニ内のイートインスペース。下見時に、広さも充分、寒さも防げるので即採用としたのだ。我々の年齢にピッタリの場所だった。

ここからは疏水はトンネル、人は峠越えとなる。煙突状の第2堅坑は民家の庭を覗くことになるので、ごく興味のある人のみに紹介した。第1堅坑は山道を登った所に大きく見えたが、京都市民の水源に直結しているので近寄れないのが残念。

小関越えの峠をはさんで、琵琶湖と山科側の藤尾、結果的には藤尾がやや低かったのであるが、よくぞ峠を越して水を流すことを考え着き、実行したものだ、と感心する。



<怪しい人を近寄せない第1堅坑>

江戸期の用水の多くは川の上流から山麓を這わせ台地まで水を引いてきているが、琵琶

湖疏水の峠越しの発想は驚きに値する。トンネルを掘るという技術もそうだが、それ以上に測量技術の高さに驚くのである。

例の几号水準点も藤尾磨崖仏の石垣と小関峠を越えた等正寺墓地入口で見つけることができた。峠を越えたらしめたもの、のんびりと時間を過ごすことができる。

願いが叶ったのだろうか、長等神社の馬神様で一心祈っていた人が居た。入山料を払って階段を登るとそこは三井寺の観音堂であった。琵琶湖方面の眺望が素晴らしい。三井寺は見るものが多い。観音堂、毘沙門堂、微妙寺、唐院、三重塔、一切経蔵、弁慶の鐘、関伽井屋、三井の晩鐘、金堂などを廻って仁王門を出た。寺で約2時間ほど過ごしたのだろうか、すでに4時を過ぎていた。護法善神堂前で羊糞の大中小で楽しんだ。



<三井寺・一切経蔵の下で>

三寺の総門から疏水の第一トンネルの入口、大津閘門、旧制三高の木造艇庫まで歩いたら疏水の旅もおわり。琵琶湖岸だ。かつて琵琶湖湖岸には四高艇庫もあったと聞く。艇庫には三高の校章が残っていた。現在まで継承されている。羨ましいと思った。

3. 義経・鴨越Pw

(報告者 8期 黒崎 史平)

- ・実施日 2017 2/25(土)
- ・場所 神鉄藍那駅～雪御所跡 (兵庫区)
- ・参加者 (16名) <§: 夫婦で参加>
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、黒崎⑧、藤井⑩、高田⑩、畔山§⑪、加藤§⑪、上馬⑮、金井⑮、高村⑮、間所§⑮、三宅⑮
- ・報告

10時、神戸電鉄藍那駅(神戸市北区)に集合した。早めに着いた人は駅周辺に点在する宝篋印塔(誤伝紫式部の墓)や七本卒塔婆を見学していた。9時45分には全員集合。駅前狭いので即出発し、藍那集落へ急坂道を登る。

坂道の途中にある農村舞台跡の小さな広場で、小休止がてら今日のルートなどの連絡を行う。加藤君の用意してきた多色刷りの地図が見やすくて便利だ。



<藍那集落・農村舞台跡の広場にて>

今日は1184年陰暦2月7日源平の戦の勝敗を決定づけた源義経の奇襲：鶴越の逆落しを行った際の道をたどる予定だ。

小広場からさらに急な道を上り、右に巻くと丘の上ながら斜面に水田がある。まだ冬の気配の残る水田をぬけて、稜線部の道に出会う。道の向こう側は昨年開園した藍那国営公園だ。境界の高い金網のフェンスが道沿いに続いている。この道を左にしばらく行くと高さ1.5m位の宝篋印塔がある。和泉式部の墓と伝えられているが、もとより誤伝で南北朝時代のものとされている。このちょっと先には藍那から直登してくる道が出会い、「藍那の辻」と呼ばれている。足下に小さな石の道標があり、「右あいな」、「左みき」と刻まれている。兵庫と三木を結ぶこの道から藍那への下り口を示したものであろう。義経は2月6日には藍那付近に到着していたようで、藍那から直登してくるこの道を地元では義経道と呼んでいる。



<伝 和泉式部の墓（南北朝時代のもの）>

しかしこの道を馬で上ってくるには無理があり、義経は三木方面から起伏の少ない丘の道を来たとする方が自然である。

我々は金網フェンスに沿って南東に進むと、まもなく浅い谷地の「相談ヶ辻」に着いた〔11

時12分〕。ここは義経が右折して白川に出るか、直進して鶴越に出るか軍議をしたと伝えられる場所でこう呼ばれている。右方面の森に入る道の入口には白川方面を示す小さな道標が掛けられている。

一休みした我々は鶴越方面に直進する。まもなく森の中の尾根道は突然ひらけ、星和台の新興住宅地に入った。両側に歩道のある舗装道路を南に20分程で抜けて、信号を渡り、鶴越墓園に入った。ここから先は墓園造成工事により古道は削り取られているが、所々地蔵院や蛙岩の旧跡に古道の気配を伺うことができる。平坦な墓園の外周路を南にひたすら歩くこと30分、高尾山山頂への登り口に着いた。ここには古道時代からの地蔵院があり、いくつもの言い伝えが残っている。極めつきは「義経駒繋ぎの松跡」である。現在切り株のみ残っているが、切り口の年輪からどう見ても100年は超えていない。800年以上前から生きていたとは考えられない。

高尾山の山頂で昼食となる〔12時30分〕。



<高尾山403m山頂にて 背後は神戸市街地>

春霞で遠くの山が識別できなかったが、山頂からは神戸港方面や明石海峡大橋がよく見えた。双眼鏡を取り出して展望を存分に楽しんだ。

地蔵院まで戻り〔13時20分〕南下した後、古道と言われる踏み分け道へ入って5分、そこには岩盤が露頭していた。複雑に風化した大岩は下から見上げるとガマガエルの頭に見え、「蛙岩」と呼ばれている。興に乗り岩の上で印を結ぶ人がいた。児雷也になった気分であろう。古道から再度墓園に降りてトイレ休憩をとり、車道を下り南ゲートを抜けると広いバス道路に出た。ここには史跡鶴越と刻んだ石碑が建っている。一般に、義経はこの先ひよどり展望公園から長田付近の鶴越町に下ったとされる。

しかし、この道は江戸時代に作られた道で、

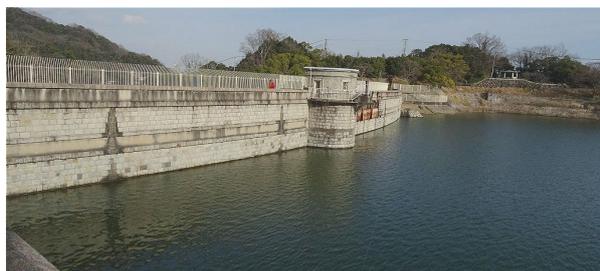
逆落とする難所もなく、義経逆落し道からは除外されている。鴨越古道は神鉄鴨越駅付近から烏原谷に入り、石井町に通じていた。我々もなるべくこれに沿って下り、鴨駅前踏切を渡る。



<神戸電鉄・鴨越駅の別れ>

ここで高村さんと高田さんが電車で帰途につかれた。山中の無人駅で上りと下りホームにそれぞれ一人ずつ立っている構図は映画の1シーンの様だ。

我々は烏原方面に狭い石段を下り、烏原水源池に出る。回遊路を立ヶ畑（たちがはた）ダムに向かう。立ヶ畑ダムは神戸市の水道水源として明治38(1905)年に竣工した日本で4番目に古い重力式ダムで、国の有形文化財に登録されている。ダムの建設により烏原村(98戸414人)が水没した。離村するに当たり村人は線香の材料作りに使っていた石臼を記念に残し、石臼はダムの護岸に使われている。ちなみに最古のダムは新神戸駅の奥にある布引五本松ダムで1900年竣工とか。ダムサイト着15時10分。



<立ヶ畑ダム M38年竣工>

しばし、アーチ状にカーブする堤体、ダム湖右岸の石垣内の石臼、下流側の減勢工などの風景を見た後、小休憩とし、羊羹の大中小などを楽しんだ。

烏原村を通る石井川沿いには古道烏原越道があり、かつて、平清盛が毎月この道を通り丹生山へ月詣をしたと伝えられている。この古道の下流側は深く狭い谷地形となり、市

街地へと抜ける。しかし義経はこの谷を通るのは避けたと考える。両側の崖の上から攻められれば避けようがなく、谷の出口では平家軍が待ち構えていよう。尾根を南側に越えて50mほど進むと、視界が急に開け、足下から急斜面が落ち、市街地が一望される。200m位先には栗花(つゆ)の森の大エノキが落葉中ではあるが見てとれる。さらに200m位その先に雪の御所(清盛の別荘)跡と言われている湊山小学校もはっきり確認できる。ここから足下の目と鼻の先に、街道を固めて平家軍がいたのは想像に難くない。ここからなら、平家軍の横に不意を突く事ができる。我々は栗花の森を目指して急勾配の階段を駆け下りた。と言いたいが、階段の手すりにすがり、互いに間を空けて、そろりそろりと下りていった。まさしくここが逆落としの場所に違いない。



<栗花落の森を伝えるエノキ>

狭い路地に入ると幹の直径が約1m、梢の先までは測れない位の大きなエノキが2本そり立ち、その間の奥に祠がある。横に伸びた枝は周りの家の屋根にかからないように切られているが、上の方はまっすぐに伸びて一説には高さ20mと紹介されている。

小さな祠には白滝姫が祀られている。奈良時代、山田庄(現在の北区)の若者山田真勝が朝廷に仕えていた時、身分の違う白滝姫と結婚を許された。山田庄に姫を連れて帰る際、山陽道から烏原谷越道に向かう入口辺りの森で一休み中、梅雨の季節にもかかわらず日照り続きで村人が苦しんでいる事を知った姫が杖を突き立てるとそこから清水が出てきた。真勝はその後栗花落(つゆ)姓を賜ったことから、この森は栗花の森と伝えられている。つまりここには1200年以上奈良時代から街道があったのだ。

ひとしきり見物した後、石井川に出ると川

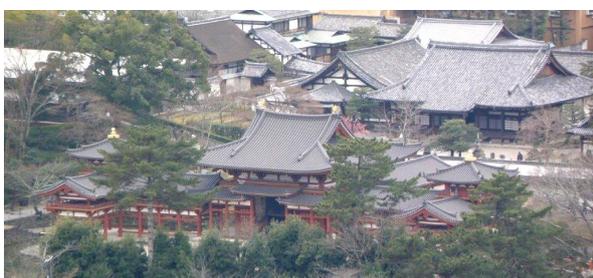
中の石にカワセミがいて、あまり動かない。早速撮影タイムとなった。上流側へ下流側へと追っかける。石井橋を渡り、今日の終点：湊山小学校に着いた[16時15分]。校門横の雪見御所(平清盛の別荘)跡の碑を見て、「おごる者久しからず・・・」平家物語の一節を思いだした。

16時25分、無事解散となった。一部の人は石井川に沿って下り「トシヤ」に向かう。一部は湊山温泉や平野温泉を見て、平野の交差点で各方面のバスに分かれた。

4. 宇治・天ヶ瀬Pw

(報告者 15期 三宅 毅)

・実施日 2017 3/18 (土)



<大吉山展望台からの平等院>

・コース JR宇治駅=(京阪バス)=くつわ池自然公園～六石山～天ヶ瀬ダム～興聖寺～大吉山(仏徳山)～宇治上神社～JR宇治駅 (歩行距離7キロ)

・参加者(13名) <§:夫婦で参加>
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、篠島⑧、島林⑩、藤井⑩、畔山⑪、加藤§⑪、森川⑪、上馬⑮、金井⑮、三宅⑮

・報告

宇治と言えば世界文化遺産平等院や宇治茶、源氏物語の町など観光名所ですが、宇治川上流には意外に知られていない自然あふれたハイキングコースがあると知りPWを計画しました。

JR宇治駅10時集合だったが早く着いた金岩さん、藤井さんは平等院拝観に行かれた。元気です。10時29分発の京阪バスで15分くつわ池バス停到着。

くつわ池は灌漑用のため池だったようで、馬のくつわに似ているらしいがよく分からない。くつわ池自然公園は広大な敷地にキャンプ場やロッジなどがありファミリーに人気があるようだ。公園に入り緩やかな登り15分で展望台。

鷲峰山など山城の山々や宇治田原の町が良く見える。ここで昼食。金井さん差し入れのアップパイ(アップルパイ)で恒例の大中小じゃんけん。



<六石山展望台にて>

シニアが大騒ぎ。展望台から30分の緩やかな登りで本日の最高峰「六石山」(366m)展望無し。六石山(ろっこくやま)は三角点の名前が末山となっている。この辺りは三つの自治体の飛び地になっており呼び名が違ってようだ。六石山からは緩やかな尾根道を下る。

歩きやすく頬にあたる風が気持ちいい。時々長岡京から山崎あたり的高速道路や天王山、北摂の山々が見える。右手に青々とした水をたたえる天ヶ瀬ダム湖(鳳凰湖)が見えてくる。六石山から約一時間14時天ヶ瀬ダムに到着。天ヶ瀬ダムは昭和39年完成のドーム型アーチ式コンクリートダムで高さ73m、長さ254m。結構巨大なダムで驚いた。



<宇治川本流を堰き止めている天ヶ瀬ダム>

ダムの上をゆっくり見学。観光客を避けてダムを眺めながらまたまた大中小。今度はかまど羊羹だ。誰も恥ずかしがらない。15時天ヶ瀬ダム出発。

宇治川沿いの散策道路をのんびりお喋りしながら歩く。30分ほどで興聖寺入口。琴坂と言う風情ある石段を登り興聖寺の庭園を拝観。紅葉と桜が綺麗らしい。

興聖寺は1233年道元が開創。曹洞宗最初の

寺院で山号は仏徳山で大吉山とも呼ばれる。
なぜ大吉山と呼ばれるのか？わからない。



＜興聖寺竜宮造りの山門にて＞

興聖寺から急登 30 分。16 時 15 分大吉山展望台到着。頂上は展望がないと聞いていたので殆どの人は頂上には行かなかったが、金井さんが大吉山頂上まで登ったのには驚いた(笑)。大吉山展望台からの眺望は抜群。宇治川を挟んで平等院や宇治の街並が良く見える。

大吉山展望台から下り 30 分で世界文化遺産「宇治上神社」16 時 45 分到着。丁度拝観時間が終わった所で残念ながら拝観出来なかった。ここから「さわらびの道」と呼ばれる源氏物語散策の道を通り宇治橋へ。橋の袂の梅の木にたくさんのメジロがいて写真撮影。JR 宇治駅前のビアホール「ロッキン・ハーツ」に向け重い足取りで進む。



＜ロッキン・ハーツで打ち上げ＞

早く生ビールを飲みたい。17 時 50 分到着。ボリュームのあるチキンやフィッシュ料理をあっという間に平らげる姿はまだまだヤングです。19 時 10 分 JR 宇治駅にて解散。歩行距離 7 キロ程度のコースだがアップダウンが結構あり最後は足が重かった。山歩き、ダム見物、世界文化遺産の神社仏閣など見所も多彩な PW だった。

5. 法隆寺～矢田寺 P w

(報告者 11 期 加藤 忠好)

- ・実施日 2017 4/15(土)
- ・コース JR 法隆寺駅～吉田寺～藤ノ木古墳～法隆寺境内～松尾道～松尾寺～松尾山(315m)～展望台～矢田寺～横山口バス停＝近鉄郡山駅
- ・参加者 (9 名) <§ : 夫婦で参加>
金岩⑤、藤井⑩、畔山 K⑪、加藤 T⑪、森川⑪、上馬⑮、宇野 §⑮、三宅⑮
- ・報告

誰かが山行きの企画をしてくれれば参加しますよといっても、その企画提案となかなか手を挙げてくれないのが現実だ。



＜藤ノ木古墳にて＞

それでも、事前調査、下見などを含め慣れれば、なんでもないことでも、やりつけていないと面倒である。この会のように、参加者の技量、体力、性格などについてお互いよく知っているの、何とかなるだろうという安堵感があってもそうなのだから、便利かつ経済的理由から業者企画のツアー登山が成立するのうなづける。

思い起こせば、ワンゲル現役時代もオープン登山と称して、一般学生を白山に案内し部の主要な収入源としていた。

今回は、10 期藤井さんが滋賀県の雪野山あたりで計画しようかとの申し入れがあったので、安心しきっていた。が下見の結果からは、ちょっと中途半端だから止める……といわれたときには、はたと困った。しかし、奈良・矢田丘陵の南部の矢田寺、松尾寺、法隆寺あたりで再度計画するとの連絡で、また安堵した。かように企画していただいたのに、2 日前での降水確率が 50% で心配。それが前日には 20% となり、藤井さんから実施連絡があり、また安堵した。

JR 法隆寺駅に 9 名が集合、直接法隆寺の方に行く予定が、早くから来ていた金岩さんがお年寄り向きの寺を下見してきたという。道

がわかるならばと、企画の藤井さんもOK。急遽ぽっくり寺が加わった。



<ぽっくり寺として名高い吉田寺>

正式には吉田寺(キチデンジ)であるが、通称名の方がよく知られている。JR 法隆寺から旧道で西へ、途中から自動車も通れないような道を行くと、吉田寺の標識が出てきた。拝観料 300 円を納め境内へ入る。三重の塔も室町時代のもので重要文化財だ。4月も15日。例年ならば桜は終わりだ。しかし今年はまだまだ残ってた。

ここから北へ歩く。紅葉で名高い龍田神社があった。今の季節はさしてみるものがないので、法隆寺の西にある藤ノ木古墳へ急ぐ。このあたりは昔ながらの細い道が多い。時には畦道を歩き古墳に到着。この古墳を有名にしたのは、石棺が未盗掘石棺のままであったことだ。発掘物は国宝に指定されている。

藤ノ木古墳をグルッと一周し、土塀と民家に挟まれた風情の良い道を東に進み法隆寺の西大門に着いた。地元の中学生在が通り抜けていく。正門の南大門、東院伽藍に続く東大門は観光客が多いのに、ここは普段の顔をしているのが心地良い。門を入ると法隆寺独特のゆったり感が広がる。

拝観料のいらぬ西室、金堂や五重塔がある西院伽藍の廻廊の外側に沿って歩いた。



<法隆寺・西院伽藍の東室あたりにて>

真中に柱のある中門は、梅原猛の隠された

十字架の象徴的な建物だ。東室あたりで雨がポツポツ。これから登山というのにいやな予感がする。法隆寺での時間つぶしはいくらでもできる。さらに東門まで来たときに、風雨はおろか、突風が吹き、大きな看板が飛ばされ、上馬さん目がけて襲いかかってきた。とっさに避けることができたのは、日頃の山行きで培った判断のよさと敏捷性のお陰であろう。

雨の中、さらに東院まで行った。拝観も考えたが海外の観光客が多いので、一旦桜を見ながら、風と雨を避けながら、立ち昼食を摂ることにした。



<西院伽藍から東院伽藍への道>

昼食を終えると、暗雲が消え去り太陽がほんのり差してきた。なんとという幸運。迷うことなく気持ちを登山に切り替えた。



<日本最古の厄除け霊場 松尾寺>

法隆寺の北側の山が矢田丘陵である。斑鳩神社を過ぎ、法隆寺CCに入るあたりが松尾寺への登山口だ。13時出発。昔は主要な道であったろうが、今では完全な山道である。喘ぎあえぎ登り、約40分で松尾寺の北惣門に着いた。惣門の内側の清水で喉を潤した。松尾寺の中は桜花が絨毯のように敷き詰められていた。

松尾寺の由来では、舎人親王が42歳の厄年であったのと日本書紀編纂の無事完成を祈りこの寺を建立したとある。よって、この寺は日本最古の厄除け霊場であるそうなる。

裏にある松尾山315mが今回の最高点。山頂には電波塔があるだけで展望はまったくダ

メ。ほぼ稜線伝いにつけられた林道を北に約15分歩いた展望台からは奈良盆地が眺められた。



<展望台からの奈良盆地>

春霞の中に、興福寺の五重塔や東大寺の二月堂が見えた。矢田寺までは急な下りを避けたが、それでも結構な下りだった。途中、弘法の井なるものがあったが、その水を飲んだ金岩さんの言によると、松尾寺の水の方がおいしかったとのことであった。

矢田寺も桜の絨毯であった。矢田山金剛山寺というのが正式だが、矢田寺のほうが通りがよい。また、あじさい寺ともいう。矢田寺は、大海人皇子のちの天武天皇が関与しての創建で、壬申の乱とも関係している。当初、十一面観音と吉祥天女を本尊としていたが、平安初期に地蔵信仰に変わった。その伝説も小野篁や裁きに悩む閻魔様などが出てきて実に面白い。



<面白い伝説を持つ矢田寺>

矢田寺に着いたのが16:20頃、寺からバス停も遠く、本数の少ないバスに乗るべく、少しの休憩だけで寺を辞した。

大和郡山の居酒屋で今日の天候と無事に感謝し、桑名から参加した森川さんと19時半ごろ別れた。

6. 大和三山Pw

(報告者 5期 金岩 孜)

- ・実施日 2017 5/13(月)晴
- ・場所 大和・耳成山、藤原宮跡、畝傍山他

・参加者(15名) <§:夫婦で参加>

金岩⑤、伊豫§⑧⑩、高田⑩、畔山§⑪、加藤§⑪、森川⑪、赤地§⑫⑭、楠屋⑭、宇野§⑮、三宅⑮

・報告

ゴールデンウィークの喧噪も一段落した一日、本年第5回目のPWが大和の藤原宮跡とそれを囲む大和三山の内、耳成山と畝傍山(何れも死火山)の二山などを巡るコース設定で実施された。

企画・引率者は5期の金岩本人。年初のPW打上げの場で2年前に某OB仲間と歩いた大和三山の話をもくもくとした所、意外にも多くの賛同者があり企画することになったのだ。



<藤原宮 朝堂院南門跡 背後は耳成山>

大和三山はウォーキングに関心あるウォーカーにとってよく知られたアイテムで、何れも標高200mに満たない低い山々なので、その気になればいつでも巡る所なのである。実は企画者本人も2年前に初めて巡ったのだから、大きいことは言えないのではあるが...

友人と来た2年前は耳成駅集合だった。今日の集合地は大和八木駅なので、耳成山までのルート確認を行うべく集合時刻の約1時間前に八木駅に着き、下見を行った。今回の歩き出し路でのトラブル発生回避を図ったのである。

集合時刻までに全員集まり、準備体操を兼ねて先導しながら歩き出した。暫く歩くと早過ぎるとの忠告。引率の私は既に準備運動を兼ねた下見で足も軽くなっていたらしい。

耳成山(139m)登山口の公園にほど予定通り到着、この日のコース概要等の説明を行って上り始めた。散歩道を歩くように楽々道の方を上っていく近在らしき人も何人か見受けられた。一方、我々はワンゲル精神もあって登山道の方を選んだのだった。その結果8合目の耳成山口神社に到達する前に列が思った以上に伸びていて、2枚目のイエローを受けたのだった。

神社で一日の全員の安全と完歩を祈願し、山頂に向かった。山道が続くルートながら5

分弱で山頂に着き、この日の1山目の全員登頂が出来た。



<耳成山登頂記念>

耳成山は小高い丘の様でありながら一応山であり、三角点も確認できた。樹間から金剛葛城山系を望見し、記念写真も撮って下山。次の目的地の藤原宮跡へと向かった。

藤原宮跡までは1km強の距離ながら、途中の醍醐町環濠跡や醍醐池土手にある四等三角点(72.6m)や観音像を見学しつつだったので、到着は昼になっていた。

平日で夏日的気温だったので、他の入場者は少なく我々は木陰に陣取ることができ、まずは昼食、そして森川宗匠他による野点。途中で火気厳禁の忠告が入ったが、風そよぐ中、三山の姿を眺めつつ美味しく味わった。万葉の人たちも、このようにゆったりとお茶などを口にしたのではなかろうかとの思いを馳せながら...



<藤原宮跡 背後は天香久山>

色とりどりのコスモスが一面に咲く秋の頃は、更に印象深くなることだろう。

お腹も落ち着いたので、周りを見渡す余裕も湧き、宮跡内を巡ることになった。

ご存知のように藤原京は平城京に先立ち、唐の長安を模した日本初の本格的な都(平城京や平安京を凌ぐ規模で5.3km四方の広さだったといわれている)として造られ、持統天皇(41代)、文武天皇、元明天皇の3代16年間(694-710)統治の中心であった。

この日は藤原宮跡の大極殿跡、朝堂院南門

跡の多くの再現列柱や朱雀大路跡などを大和人になった気分で見学できた。

この後は藤原宮南大門の両翼に鎮座するペア寺院の内、本薬師寺跡への直行が通常だが、今回は片方の紀寺跡にも立寄った。

紀寺跡前の道路(藤原京の八条大路)脇の案内板では奥まった所の芝生地が寺跡であるとのことだったので、時間の都合もあり案内板の説明文に目を通し画像に収めたのみで後にした。そして本薬師寺跡(西ノ京の薬師寺の前身)へ。

天武天皇が皇后(持統天皇)の病平癒を祈念して発願された寺院の跡である。巨大な礎石群を借りて腰を下ろし往時の姿を偲びつつ小休止。夏場であれば隣接農園のホテイアオイ大群生を鑑賞できる地でもある。



<旧本薬師寺の礎石>

元気を回復して畝傍山(199m)へと向かった。畝傍山は三山の中で最も高く、香久山と耳成山が当山をめぐって歌詠みして争ったことでも知られている。

時は既に15時過ぎだったが、5ルートある登山路の中で、高齢者ながら元気集団の我々は最長の神武天皇陵や畝火山口神社等を経由するルートを選択、勇んで歩を進めた。平日の夕方近くだったこともあり、神武天皇陵への参拝者は他には数えるほど。



<神武天皇陵にて>

型通り参拝して記念写真撮影後、山麓周回路(入口が見つけれない)に踏み入った。同行者

たちの協力もあって畝火山口神社に無事到着、登山の安全祈願を行って登りについた。



<畝火山口神社側の登山口にて>



<畝傍山登頂記念>

20分弱でこの日の2山目も無事全員登頂できた。

大中小休憩や三角点の確認、樹間からの金剛・葛城連山や大和側の藤原宮跡・耳成山・香久山等の展望を楽しみ記念撮影後、今度は歩き易い北参道登り口へのルートを下った。途中、東大谷日女命神社を横目で認めつつ通過、全員無事下山できた。畝傍山をほぼ一周したのだった。

榎原神宮の森閑とした空気に身を清められつつ北神門から南神門へと、閉門時刻が迫る中、境内を通り抜けた。内拝殿から幣殿頭上に西に傾いた淡い照りの太陽が優しく微笑むように浮かんでいて印象的だった。



<榎原神宮北神門>

深田池経由で榎原神宮前駅へと向かい、駅前の宮崎市との縁で設置された「幸せの黄色いポスト」の脇を通って駅構内に入り、馴染みの居酒屋「きはる」で打上げして解散・帰途に

ついた。

今回は大和三山の内、二山を巡ったが、残りの香久山登山をコスモスと併せての希望も多くあり、機会を見つけて企画したいと思っている。

また、参加の皆さんからの心温かいご協力によって今回のPWを予定通り無事終えることができ、感謝一杯の一日だった。どうもありがとう！

7. 霊峰生駒・水と仏を巡る極楽Pw

(報告者 12期 赤地 賢一)

- ・実施日 2017 6/19(月)
- ・コース 近鉄瓢箪山駅(徒歩 or タクシー) 鳴川峠登山口～水車小屋跡～神感寺～森のレストH～展望台～鳴川峠～千光寺～清滝石仏群～音の花温泉～近鉄東山駅
- ・参加者 (13名) <§:夫婦で参加> 金岩⑤、伊豫§⑧⑩、藤井⑩、畔山§⑪、加藤§⑪、赤地⑫、楠屋⑭、宇野§⑮、三宅⑮
- ・報告

9:30 近鉄瓢箪山に13名の顔ぶれがそろいました。梅雨入りしたのに、今日はぽっかり晴天。さすが近畿の晴れ男15期三宅のご威光恐るべし。



<{シルバー派}と{青春派}との出会い>

今日は東大阪から登り、鳴川峠を越えて奈良県側へおりのコース。

難波と大和の境にある生駒連山は、日本書紀にも表記があり、古来より山岳宗教的雰囲気を持つ霊山として歴史に刻まれてきた山です。

初っ端の駅前から分派です。 Why ?

計画時、某氏曰く。「夏に向かう時期なので、シルバー世代のことを考え、駅から登山口までタクシー可の{シルバー派}、暑さにめげず歩く人は{青春派}としましょう」と。

山行後の某氏のメール曰く。「驚きましたね。

青春派を名乗る人が、かように多いとは！！
夢幻かと思いましたよ。清純派としておけば、
もう少し減ったかも・・・」

ということで、標高 160m の登山口で両派
合流。10:37 登山開始です。

(このときサングラス事件発生：※1)

ほぼワンピッチで水車小屋跡に到着。朝ど
れ胡瓜を支給。まっすぐ登れば鳴川峠ですが、
それでは即奈良県側に下ることになるので、
そこは老いたりと言えども元KUWVの面目
もあり、左の“石畳の路”を神感寺めざして
登るのです。

生駒山は、大阪側からはかなり急峻な登り
です。八重姫龍神にも参拝して 11:39 八大龍
王神感寺着。

山上にも拘らず、かつて南北朝時代には壮
大な伽藍を擁していた遺構があります。



<神感寺山門にて>

“お待たせしました”お昼はここから 10
分登った「森のレストハウス」でいただきました。
食後デザートのアイスクリューもふる
まわれ、元気回復。



<ぼくらの広場展望台 525m>

5分登り府民の森“ぼくらの広場”の展望台
525mからは大阪湾、六甲山、淡路島、奈良飛
鳥、吉野方面などダイナミックな見晴らしと
爽やかな風を楽しみました。

ここからは生駒連峰の縦走路をたどり、快
調に鳴川峠におります。13:37 鳴川峠着。

信貴生駒スカイラインの下をくぐれば奈良

県です。足どりも軽く（軽すぎて一回転事件
発生：※2）櫟(いち)原川の溪流沿いを下り、
14:22 千光寺に着きました。開基は役の行者。



<山深い千光寺山門>

大峰山（山上ヶ岳）を開くまでは、ここで修
行をしたため、寺周辺を「元山上」と呼び行
場は今でも残っています。ならばとて、行場
の一つ“鎖場”に挑戦。晴れ男の三宅氏は元
体操部の面目躍如、クリア。残りの中から5
期金岩会長がチャレンジ。御立派！！でした。

鳴川の民家を抜け、渓谷に入るとそこは幽
すい境。八尺地藏（鎌倉時代の磨崖仏）の微
笑に癒され、なお歩くこと 40 分、谷一つ、田
んぼの畦道伝いに越えれば、日本 100 選にあ
る“音の花温泉”に着きました。16:04

お疲れ様でした。露天風呂につかった後は
打ち上げです。酔っぱらっても“没問題(No
problem)！”近鉄東山駅は徒歩 3 分の距離で
すから。

※1：タクシーの下車地点らくらくセンター
Hに高級サングラスを置き忘れ、登山口から
伊豫さんと走り戻ったが見当たらず……と
思いきや、昼食時に旦那のザックからポロリ
と発見。いとミステリーな事件。

※2：鳴川峠からのゆるやかな下りで、木の
根につまずき、一回転した事件。

《加藤⑩期》晴天に恵まれた今日一日ありが
とうございました。下界では、さぞ暑かった
だろうと思いますが、山上の木陰は涼し
かったですね。それでも風呂に入ったら頭が塩辛
かったのです。かなり汗をかいていたよう
です。また、智美さんの足は、家に近づくにつ
れて痛くなったと言っていますが、長年のシャ
ロックホームズ的緻密な観察から、それはサ
ングラス事件をカムフラージュしているのだ
とにらんでいます。ということで、みなさん
ご安心を。

《金岩⑤期》大阪では今年初の猛暑日になっていたようですが、生駒の山中では木々の茂っていた所が多く結構楽しく歩むことが出来ました。緊急アラート時の対応訓練、赤地劇場の公演、行場での古式体力測定など赤地さんならではのバラエティーに富んだ例会でした。あの岩場での失態は大いに反省している所です。靴ひもをしっかりと締め直して取り掛かるべきでした。



＜行場に挑戦する金岩さん＞

《藤井⑩期》梅雨時の難しい時期なのに爽快晴下、実に気分の良い1日でした。炎天下ずっと木陰で行けるコースというのも珍しいのでは。往時を思い出させる赤地さんの負荷力のおかげで、道中おいしい目に会いましたね。加藤家の賑やかな話題提供力に楽しかったですと言ったら叱られるな。打ったところは大丈夫だったんでしょね。なんとと言っても三宅さんと金岩さんの修験者ぶりを下から見られたのが一番でした。脱帽の一言です。

《三宅⑮期》生駒山は日陰も多く快適でした。展望あり溪流あり田畑あり岸壁あり神社仏閣ありの変化に富んだコースを案内いただきありがとうございました。特製ジェラートは冷たくて色んな物がはいついて感動でした。美味しかった！



＜下山後かつ風呂上りのビールはうまい＞

音の花温泉の露天風呂は解放感一杯で気持ち良かったですね。生ビールも最高でした。あんなに美味しいビールは久しぶりでした—(笑)。いつまでも元気で陽気な皆さんとの活動をこれからも大切にしていきたいですね。

こんな仲間はそうそうないですよ。秋10月のサンマパーティーでまた皆さんと騒げるのを楽しみに、暑い夏を乗り切ります。

《畔山⑪期》空梅雨の、30度を超える暑さになった下界から、400m～600mの高みに誘ってもらえて最高でした。木々の影で吹く涼風や、大阪の街並みを一望するぼくらの広場での乾いた風が、心地よかったですね。また、食後のアイスクリームは格別でしたね。

《伊豫⑧期》昨日は1日楽しく過ごさせていただきありがとうございました。赤地さんの健脚にもびっくり。もうみんなが高齢者の仲間入りなので少しきつかったかも。生駒もなかなか素適だとしました。

《宇野⑮期》一汗二汗かきましたが、小陰も多く、楽しいコースを有難うございました。あの食後のデザートの写真を撮り忘れた事を後悔しています。(作るお手伝いで手一杯でした)凍った牛乳やジュースのパックがたくさん出てきて、びっくりしました。



＜山上までボッカした特大アイスクリーム＞

暑い時期の良いデザートですが、重いし、準備が少し大変ですね。堪能しました。

《ps 加藤⑪期》宇野さん、それにしてもあちゃんは強いですね。赤地さんにバッチリ付いていくのに対し、私しゃ、水車小屋跡からの登りで落伍しました。昼食をはさんで元気になりましたが、あれで、瓢箪山駅から歩いていたら、奈良県までいけなかったでしょう。私の判断の正しさを褒めたくくなりました。

8. 続大和三山Pw

(報告者 5期 金岩 孜)

- ・実施日 2017 10/11 (水) 晴
- ・場所 大和・安倍文珠院、香久山 (152m) おふさ観音、今井町他
- ・参加者 (8名) <§: 夫婦で参加>
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、高田⑩、畔山K⑪、加藤§⑪、楠屋⑭

・報 告

本年5月に大和三山PWを実施し耳成山と畝傍山の二山を巡ったが、「残りの一山(香久山)をも巡りたい」の要望に応えると同時に、先のPWで鑑賞できなかった藤原宮跡の大コスモス園をも巡る案をベースに、コースのより充実化を図る手立てを考えていた。そして明日香の彼岸花祭り見物等で桜井駅・観光案内所に立ち寄った。安倍文殊院～天の香久山～藤原宮跡～おふさ観音を巡るコース(大和長寿道)を「大和ぼけ封じ霊場巡拝」と名付けたJRが作成したパンフレットを陳列棚で見つけて入手、事務局の支援を得て、実施に移すことができたのだった。

募集期間が短く、また行楽時期と重なっていたこともあって、参加人数は8名に留まったが、晴々男のM氏欠席にも拘わらず、参加した晴男女の合力によって好天、それも夏日のような暑さを伴った青空の下でのウォーキングになった。



<コスモスの咲く藤原京跡 背後は天香久山>

実施当日、集合地のJR/近鉄桜井駅前に集合時刻までに全員が揃ったので出発。晴天は良いが、日射しが10月にしては強く暑くなりそう。

桜井市は「芸能発祥の地」、「万葉集発耀の地」、「相撲発祥の地」や「仏教伝来の地」として駅北側広場に木製塔を建ててPRしていた。

歩き始めて10分ほどで最初の目的地の「桜の井」に着いた。メジャーな観光地ではないが、「桜井」の地名の起源になった井戸で、是非案内したかったスポットであった。履中天皇が磐余池に行幸になり、「桜の井」の水を召し上げられ、これを賞美されてより「桜井」の地名となったという伝承もある。

次は約100m先の磐余稚櫻宮伝承地と言われている「若櫻神社」に参拝し先を急ぐことにした。



<桜井の地名の由来はここから>



<桜井公園の一角にある土舞台>

しばらく進み、案内表示に従って右折した所、予想外の急坂に出合い驚きつつ登りきると「安倍山城跡」と隣接の「土舞台」に至った。土舞台は聖徳太子が少年たちを集め伎楽を習わした地で、桜井が「芸能発祥の地」と呼ばれる由来の所である。

そこを後にして、複雑に曲がりくねった細い道を歩み最後に民家脇の道を進むと古墳に行き着いた。「艸墓古墳(ハシカ)」、別名「カラト古墳」である。7世紀中頃の築造とみられる方墳で、長辺約27m、短辺約21mの戴頭長方錘形である。横穴式石室に竜山石製のくりぬき家形石棺が安置され、有志は石室に入って手で触れつつ観察した。



<頭のボケ封じ寺、安倍文殊院>

次は日本三文殊第一霊場の安倍文珠院。本尊は日本最大7mの文殊様。知恵の仏様で知られ、「頭からのボケ封じ」の仏としても信仰厚い。共通拝観券特典の「お抹茶・菓子」のサービスや「長寿道完歩の証」スタンプ台紙を受け取った。お抹茶は頭がスッキリする効果があるとのことで、美味しく頂いたのだった。

コスモスも彩り豊かに咲いて秋を味わうこともできた。本堂に安置の本尊に願掛けして下山、後にした。

20分程歩くと稚桜神社(ワサヅクラ)に着いた。神社名は履中紀3年、履中天皇が宮の名を磐余若桜と名付け長真胆連の姓を稚桜部造と、余磯を稚桜部臣と改めたのが由来とのこと。

既に12時半を過ぎていたのでランチ休憩も考えたが、「西井みるく工房」に魅せられて直行する意向を感じ、歩き続けた。熱中症を心配しながらである。そして到着。早速、冷たいミルクや冷菓を口にして疲れを癒し生き返った。

空腹感や喉の乾きも落ち着き当日唯一の山、天の香久山への登りに取り掛かった。「天井と地上をつなぐ聖なる山」が由来の山名。天皇が頂上に登り国見の祭事をした神聖な山でもある。まずは登山口手前の天照大神が岩戸がくれされた所の伝承地である「天岩戸神社」にお参りしてよいよ登り始めた。10分程度の登りで最高標高地(152m)にある「国常立神社(ケトコチノコト)」に登り着いた。



<天香久山山頂の社>

祭神は国常立命で俗に雨の竜王と称され、境内社として高?神(タカノカミ) (竜王神)を祀っている。西方が開けており畝傍山方面が展望良く眺めることができた。北側山道を少し下ると祭神が櫛真命(ウシマコト)で、神意を伺う占いの神の「天香山神社」に出合った。国家の大事を判断する亀卜や、天皇陛下即位の大嘗祭に行われる神?田卜定に関わる神として重ん

じられてきた神社である。もう一つのおまけは、一度里まで下り登り返した所にある「月の誕生石」参拝である。高さ1.5m、幅6m、奥行3mの花崗岩で円形黒色斑点は月の産湯。小さな斑点は月の足跡と伝えられ古くから信仰する人も多いと云われている。



<腹帯を持つ「月の誕生石」>

この香久山は三山の中で最も姿が分かりにくい、巡る所が多く印象深い山になった。

ここからは平地歩行になり、約20分で5月のPWでも巡ったことのある「藤原宮跡」に踏み入った。



<藤原京跡 背後は耳成山>

コスモスの大花園を期待していたが、残念なことに2-3区画のみが見頃であって、大半の区画は咲き始めの段階だった。ここでも記念写真を撮り、先へと急いだ。

R165を越えて数分西進すると最後の参拝予定地の「おふさ観音」に行き着いた。大和随一の観音霊場と呼ばれ、諸々の病気を取り除くと共に「身体からのボケ封じ」の仏として信仰厚い本尊の秘仏十一面観世音菩薩に願掛けをすると共に境内の日本庭園や薫り高く咲いたバラの花園を回遊・鑑賞できた。

各位の元気がまだ残っているようなので、オプションの「今井町」にも足を延ばした。が、既に日が陰ってきていたので、速足で南尊坊門跡から御堂筋沿いの商家を中心に巡り西門口跡近くの環濠復元や今西家(惣年寄りの筆頭を務めた家)と北尊坊門跡に戻って蘇武井を見学するに留まった。

赤い橋の蘇武橋を渡って近鉄八木西口駅で

今回のPWは解散、夫々帰途についた。

「桜井」の名称由来に始まり、香久山登頂によってKUWV-OB近畿支部による「大和三山登頂達成」、更に安倍文珠院-藤原宮大極殿跡-おふさ観音を繋ぐ「ボケ封じの長寿道完歩」も加わった盛り沢山のPWになったといえよう。



＜身体のボケ封じ寺、おふさ観音＞

実施に当たって、事務局を始め参加各位による絶大なご協力に篤くお礼申し上げたい。どうもありがとう！

中止となった2017 サンマP

- ・実施予定日 2017 10/30(月)～31(水)
- ・場 所 ビラデスト今津
- ・参加予定者 (20名だった)

近畿支部発足の2004以来、秋の恒例行事のサンマPが初めて中止となった。人的な理由による中止でない。超大型台風21号により、山上のピラデスト今津へ上る道路が崩れたというのだから仕方がない。

最初の10年間は「大久保雑草園」で、2014、2015は「いよやかなの郷」、「ピラデスト今津」は、昨年に続くその2年目であった。これまでは11期の畔山・加藤で企画、それに主として15期が加わり運営してきた。今年の11期会がほぼ同じ時期で、また幹事が畔山・加藤となったのを知った三宅さんが「ならば、サンマPは15期で担当しましょうか」と言ってくれたのである。渡りに舟とはまさにこのことだ。会員への連絡およびHPの作成は、これまで通り加藤が行うことになったが、会場の予約、実施時期から始まり全てをお任せすることになった。

それだけに、企画担当の15期三宅さん、間所さんの諸準備の苦勞が報われることがないまま終わったのが残念である。

当日の日程、購入品のリストアップ、レン

タルプロジェクターなど細部に亘って計画し、いつもの運営委員は当日の10時に近江今津に集合し買出しする予定だった。

ところが、心配事が報道された。それは、湖西線の電柱が台風によって折れたと言うものだった。JRの復旧というのは迅速だ。1週間もあれば復旧するだろうと思っていた。ところが、10/24(火)三宅さんからサンマP実施不可の電話がかかって来た。

ピラデスト今津からは「道路も電気もストップ。この電話も他から掛けている状況です。しばらくの間施設は使えません」とのことだったよう。

台風21号の一週間後の日曜日、台風22号が同じようなコースを通り過ぎて行った。使用予定だった山上のBBQコーナの防雨・防風シートは既に吹っ飛んでいたようで、それを聞けば先方の断りがなくても中止に追い込まれていたかも知れない。

＜番外＞サンマP 仇討ち小浜花街PW

中には、朝寝坊で近江今津は遠いという人がいる。近畿支部では金井家、加藤家が該当する。昨年は山上での前泊としたが、今年是小浜に前泊することにした。で、見つけたのが旧花街の最大定員が8名の一軒貸しの旧料亭。こんなのに乗るのがいつもの運営メンバーの森川さん、高村さん、間所夫妻。



＜小浜花街PWのメンバー＞

台風22号の到来で、実施するか否か迷ったが、天気図を読み決行。日曜日午前中は激しい雨に見舞われたが、その後は小雨。翌日もまあまあの天気であった。昼は某有名店で海鮮丼を食し、晩飯は「チンご飯」と甘エビ、イカ刺しなど小浜を堪能した。サンマPは中止となったが、明通寺など国宝も見られて仇討ちをした気持ち。満足できた。

(文責 11期 加藤 忠好)